



ゆづり

マーク制作: 関知磨子 (秋津コミュニティ: 蚊帳の海一座)

秋津のホームページ、<http://www02.u-page.so-net.ne.jp/ca2/jun50fty/> から「融合研」をリンク
融合研のトップページは、http://www02.u-page.so-net.ne.jp/ca2/jun50fty/yugo_index.htm

本号の内容

- 1 冬季フォーラム(新潟県上越地方大会)の概要
 - (1) 準備の様子から
 - (2) 全体会・分科会の話し合い(ホームページより紹介)
 - (3) 新聞記事より
- 2 第5回融合フォーラム2001in鹿沼の概要
日程、講師、役割、交通etc.
鹿沼の事例が、テレビ放送されます。
- 3 来年度冬季フォーラム(富士宮大会)について
日程、その他
- 4 会員の新聞等掲載記事
「河北新報」(針生英一) 「日本教育新聞」(和泉裕一)
- 5 連絡いろいろ
事務局会議の様子
NPO法人化へ向けて
メーリングリスト(ML)について
フォーラムの性格付け

1. 融合研「冬季フォーラム2001in上越」の概要

2月3日(土)～4日(日)の2日間で、新潟県上越市を会場に冬季フォーラムが開催されました。これまで冬季はミニフォーラムの形をとって習志野市で開催されて来ましたが、初めて習志野を離れました。ところが、その準備の過程からとても盛り上がり、またフォーラム終了後の今も参加者間で様々な交流が続いており、大成功を収めたフォーラムになりました。その様子を紹介します。

(1) 準備の様子から

新潟県は縦に長い県ですので、集まって準備の話し合いをすることは難しいということから、実行委員会を立ち上げたあとは、ML(メーリングリスト)による情報交換で、討議に代えていきました(当日までに交換されたメールは、350通以上)。当初は、少数の実行委員であったものが、それぞれが横のつながりで仲間を引っ張り出し、またそれぞれが主体的に一步を踏み出すようになるという見事な手法で、結局新潟の多方面での実践活動家50名程が実行委員として関わりました。

その準備の過程では、もちろん事務的なことも情報交換しましたが、むしろそれを通して「融合

とはなにか」「どうすれば融合は推進できるのか」というような基本的なことも多く語り合われました。

その内容の抜粋が、実行委員の勝手な善意で、一冊の冊子としてまとめ当日の参加者に配布されました。これ一冊だけでも、十分「融合」についてのバイブルになりうるかもしれません。残部はわずかですが、ご入り用の方は直接「実行委員会事務局 FAX 0255-26-5801 原省司さんに。または以下のホームページにご連絡ください。ほんとうに素晴らしいです。

(2) 全体会・分科会の話し合い(ホームページより紹介)

フォーラムの様子は、

全体会 分科会(14分科会) シンポジウム

ともに、丁寧に記録が起こされて以下のホームページに、載っていますのでご覧ください。なお膨大な量になりますので、メールをお持ちでない方には、概要のみ本会報でお送りしました。

上越フォーラムの全体がわかるホームページは、<http://www.ne.jp/asahi/ortho/kankyo/>です。

「冬季フォーラム2001 in 上越」の概要

上越フォーラムが、どのような様子であったかは、主催者の挨拶からも垣間見ることができますのでその部分だけは全文紹介します。

(1) 全体進行 原省司さん

「今日受付をされてすでに皆様、少しお気づき、お感じになっているところがあると思いますが、なんかちょっと普段と違うぞというところがあると思います。胸に名札もつけさせていただきましたし、名札も何書いていいかわからないところがありますし、今日は所属とか肩書きもあえてはせずさせていただきました。それはですね、このフォーラムに参加される方が、ただ発表者とかシンポジウムとか話を聞いて、そして帰るという会にたくなくて、せっかく参加していただいたんですから、一言でも二言でも声を出していただいて、一人でも二人でも多くの方とお知り合いになってネットワークを広げていただきたい。そういうような主旨で会の準備をさせていただいております。ぜひですね、あのいろいろ工夫させていただいておりますので、ぜひ主体的に参加していただいて、また楽しんでいただきたけるフォーラムになればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。」

(2) 和泉実行委員長あいさつ

「皆さんこんにちは。今日はこのフォーラムの開催にあたりまして、多数参加していただきありがとうございます。心より感謝いたします。このフォーラムのきっかけは、昨年の秋宮崎会長とのメールのやりとりで、新潟でフォーラムをやりたいね。の一言が日本海に小石を投げたごとく波紋が広がりまして、会をかさねるごとく上越に集まる人々が集いまして、そしてこういった今日のフォーラムに、多数の参加者を得て開催することができました。このフォーラムの2日間を通して参加された皆さんが各地域学校において今後の活動の糧となるようなものを持ちかえっていただければ幸いです。そのためにも、今回参加された皆さんの思いや意見をこのフォーラムの2日間に寄せていただき、皆さんの力でフォーラムを作り上げていっていただきたいと思います。この2日間皆さんで頑張りましょう。よろしくお願いいたします。」

(3) 宮崎融合研究会長あいさつ

「こんにちは。元気よくいきましょう。もう1回こんにちは。強制をするのはよくないんですけども。ご参加くださいましてありがとうございます。それからここまでこのように準備をしてくださった新潟の皆さん本当にありがとうございました。今、実行委員の和泉さんがですね、日本海に小石を投げたというお話をされましたけれども、さっき控え室で新潟県内のあっちこちに地雷が埋まりそうだと、そんな話を実は副会長の庄子さんが言っていました。これから新潟の石、あっちこちに広がって行って、あっちで融合の火が爆発して。今でも十分爆発をしているんですけどもどんどんどん広がって、大爆発が起きるんじゃないか。そのようなこの準備の過程、そして今日だろうと思います。秋津、習志野の秋津ですね、4年前に本当に小さな火がこう灯りまして、学社融合を楽しくやっていきたいなあ、ということから始まったのですが、たった4年で本当に全国にいろんな人が広がりました。そしてある方が言っていましたけれども、これだけ多彩な人が集まっている会というのは日本全国ないんじゃないの。行政官僚はじめ、学校関係者それから地域のおじさんおばさん、PTAの方とかですね、たとえばお寺のお坊さん、いろんな人が楽しく、そして地域でもって子供達の幸せを願いながら、自分たちも楽しい人生を送っていくのにはどうしたらいいんだろうかなということ、本当にささやかな話し合いの中からちょっとずつ、ちょっとずつ自分の願いを実現させていくという、そういうような方向で始まってきております。本当にそういう意味では、行政だけの何とか会とか、教員だけの何とか会というのと違って多彩ですので、すごく面白い会じゃないかと思えます。この2日間もですね、たぶん皆さん「ああおもしろかったなあ。」と私は思ってもらえるんじゃないかなあと思っています。その証拠がですね、実は皆さんお持ちかと思うのですが、後ろにあります、ここに渡辺所長さんのご努力ですね。準備の段階に新潟の人達が、融合ってこんなことじゃないの？私はこのことが疑問なんだということメールでぶつけ合いながら、いわゆる椅子は誰が準備しようだとか、スライドはどう準備しようという準備の合間にですね、融合の事について、「学校の壁が厚いんだけどどうしたらいいんだろう。」という素朴な疑問や「そういうときはこのようにしたらいいんじゃないの。」ということがすでにここにたくさん載っております。後ろにありますですね、これを1冊持ち帰るだけでもああ私の学校では、私の地域でもこれは使えるなあという手法がいろいろ垣間見えると思いますので、ぜひ皆さんもこのような思いで、2日間を楽しくやっていただきたいと思えます。どうぞたくさん仲間を作って、明日はいきいきとそして楽しかったという顔でお帰りいただければと思います。重ねて申し上げますけれども、ここまでの新潟の皆さんありがとうございました。どうぞ楽しくやりましょう。よろしく願います。」

(4) 小林毅夫さん

「皆さんこんにちは。小林毅夫でございます。前の大手町小学校長というつもりで来たんですが、立場を全県に当たって、義務教育の子供達とかかわってたりしている立場ですので、お名前を入れさせていただきました。県の義務教育課の課長をしております。小林毅夫でございます。改めてどうぞよろしくお願い致します。大手町小学校の校長として先ほど申し上げたのは、私が前の校長をしておりましたときに、東京の研究会で発表させていただいたときに、今日おいでの岸裕司さんと一緒になりまして、意気投合しまして、それ以来、お付き合いをさせていただいてまいりましたし、また大手町小学校、今日受付をしている皆さんも含めたボランティアの皆さんとのつながりを心待ちにしていたということがこの会でございましたし、岸さんでございました。岸さんとはお名前であるいはいろんな形でおつきあいをさせていただいておりますが、お会いするのは初めてでございます。さらにこうしたすばらしい会をひらいていただいて、本当に地元の皆さんの力でここまですばらしくできたことをうれしく思っていますし、ありがとうございます。改めて、県の方に参りましても、子供達が様々な問題を抱えている。あるいは教育の全体の問題どうしたらいい

いんだらうという問題があるわけですが、そうしたときにぜひとも地域の皆さんと共に手をつないで、学校が拠点となって地域作りをそして子供達の教育にあたっていく必要性を強つくづく感じているところでございます。現実に県庁の中の各部署農林水産部とか建設とかいろいろあるわけですが、それらの方々も教育と結んで、学校を地域の改革、いろいろ計画を進めていらっしゃる。融合、連携の時代が来ていると思っています。そういった中でこれから始まる総合活動がそういった接点、その結びつけ役をしているだろうということが、かなり県庁の中でも一般化しております。私ども来年から8次の総合教育計画がスタートしますが、その中でも学校と地域のネットワーク作りという事を掲げまして、地域の教育力を生かした学校作りとか、第2の教育をどうしようかと考えられて進めてまいります。そういった中でも一生懸命仕事をさせていただきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。今回のフォーラムの開催に当たって、一生懸命ご努力いただいているみなさん、ネットワーク作りにご協力いただいている方々にお礼申し上げて、私も今日は楽しみにさせていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。よろしくお願ひいたします。

(5)フォーラム案内 阿久津充さん

「どうもこんにちは。自称実行委員の阿久津充と申します。よろしくお願ひ申します。今ほど受付の方を通られまして、この受付の札を皆さん首から下げていただいていると思います。これも含めて4点ほど、お話をさせていただきますので、お聞きください。まずあの名札。2種類色がございまして、青いやつとピンクのやつ、実は買いに行ったとき、1色で間に合いませんで、青いのは早めに来た人がつけている。実行委員というような人達が多分青いのをつけています。そういったのをつけている方に何かわからない事があつたら聞いていただければ、どっかしらわかる人につながると思っていますので、そういうふうなことで目安にいただければと思います。2点目、ここの中に書くことなんですけれども、お名前とどちらからこられたか。それから参加した動機。動機なんて言うと非常に硬いんですが、いろんな方いらっしゃいます。スタッフに誘われてきたとか、無理やりつれてこられたという方もいるかもしれませんが、書いていただきましてこのフォーラムの重要な目標の一つであります、人と人のネットワークを作るということに役立てていただきたいというふうに思います。その下にアピールしたいこととか提供できることってな欄があります。この会場出られますと、この提供できること、自分が提供してほしいこと、そういった事を書いていただくような紙も用意してございます。そちらの方もいろいろ書いていただきまして、融合とはまったく関係なくて、自分個人で提供したい事があります。こんなこと教えてほしいです。こんなことをこんなのをほしいですとか言うことを書いていただきますと、人の人がつながっていくじゃないかというような目論見で作っておりますのでぜひ、いろいろ書いていただきたい。同じように受付の方に名刺の用紙が用意してあります。実行委員会のときに「いや、学校の先生は名刺を持っていない人が実は多いんだよね」というふうな意見も出ましたんですが、私も持っていなかったのが急遽作ったんですけども、そういうふうな方のために手書きでも何でも似顔絵書いてもらってもいいです。ご自分の名刺を作ってくださいまして人の人のネットワーク作り役に役立てていただきたいという風に思っていますので、以上よろしくお願ひいたします。雑駁でしたが、よろしくお願ひいたします。

全体会発表・分科会提案

以下のように多様な実践例が全体会で(5分程度)、そしてその後の分科会で発表されました。

(1) <上越市・戸野目小学校とNPO法人木と遊ぶ研究所

テーマ「根曲がり間伐材のアルプホルン作り」>

- (2) <西蒲原・岩室中学校
 テーマ「ワクワクセミナー ワークショップ手法による総合的な学習」>
- (3) <小千谷・小千谷小学校
 テーマ「保護者や地域と共に授業を創る」>
- (4) <小千谷・社会教育課
 テーマ「子供と一緒に～地域も学校なんだ～」>
- (5) <新井・新井中央小学校
 テーマ「ゲストティチャート共に創る授業」>
- (6) <青海町・市振小学校
 テーマ「『潮の子と共にチャレンジ!』海の子サマーキャンプ市振漁港壁画作成」>
- (7) <田上町・羽生田小学校
 テーマ「まちづくりの題材を地域融合に活かす」>
- (8) <新潟市・沼垂小
 テーマ「学校ビオトープの取り組みと今後の課題」>
- (9) <津南町生涯学習課
 テーマ「行政主導で始まった『学校ボランティア派遣事業』」>
- (10) <上越市・大手町小学校
 テーマ「“やらしてくれない!!”子どもたちと一緒に『大手ゆめ空間』」>
- (11) <埼玉県・中曽根小学校
 テーマ「学区市民と教職員の協同イベント『GAKKO中曽根』」>
- (12) <大阪・貝塚市北小
 テーマ「人と人は『ふれ愛』から、学校と地域は『ふれあいルーム』から」>
- (13) <千葉・君津市、NPO LIT
 テーマ「千葉県のIT講習事情についての発表」>

このように多様な事例が発表されました。その後、再び全体会を開き、各分科会で話し合われたことを分科会の責任者(ハシリテーター)が一枚の模造紙にまとめ、参加者全員が内容を共有できるようにしました。どの分科会ともまとめが素晴らしく、ハシリテーターの力量とそれを指導した事務局に感嘆の声があがりました。(ホームページに全部のまとめの詳細が載っていますのでご覧ください。)

発表資料は、あまり残部がないようですが、フォーラム事務局へ問い合わせしてみてください。それぞれが参考になります。

二日目シンポジウム 「結びあう融合の輪」

シンポジウムテーマ「今私達が力を合わせてできること」ー地域が変わる 学校が変わるー

シンポジスト 宮崎 稔さん(学校と地域の融合教育研究会 会長)

岸 裕司さん(秋津コミュニティ会長)

越田幸洋さん(鹿沼市教育委員会生涯学習課 課長補佐)

大島 誠さん(くびき野NPOサポートセンター理事長)

濁川明男さん(上越教育大学 教授)

大庭淑子さん(上越市立大手町小学校PTA)

阿久津美春さん(加茂市立下条小学校 教諭)

コーディネーター 渡邊正親さん(新潟県立生涯学習センター 所長) 文中(司会)

秋山正道さん(上越教育事務所 指導主事)

昨日の分科会の模様をもとに、本日のシンポジウムの方向性や話題の切り口を事務局から提案いただいて開始しました。内容は、上記のように多人数ではありましたが、立場や実践の違う人が、それぞれの中にある「学社融合」への思いや疑問をぶつけ合い、会場からの意見も交えて白熱した議論を展開しました。(この詳細も、ホームページにあります)

(3) 新聞記事より

また、フォーラムの様子が第一日目、二日目ともに地元の新聞や、日本教育新聞に掲載されました。同封しましたのでご覧ください。

2. 「第5回融合フォーラム2001 in 鹿沼」の概要

お待たせしました。学社融合の発祥の地とも言える先進地域「栃木県鹿沼市」で、いよいよ融合フォーラムが行われます。

今回は、先進地域である「鹿沼らしい特色」が随所にちりばめられたフォーラムを計画しています。とくに学校の授業日である7月の第一土曜日からを設定し、学校参観(石川小)をして、実際に地域の方々と子どもたちがどのようなふれ合いのもとに授業を行っているかということを見ていただけるように計画しました。また「参加型」を意図しているようです。初めての試みがいろいろありますのでご期待ください。

また授業日ですので、教職員にとっては出張扱いもできるように配慮してくれています。昨今の財政事情の厳しい中ですが、予算の許す範囲で、是非多くの教職員の方々にも参加していただきたいと思えます。すでに申し込みも受け付けており、参加希望が届き始めていますので、早めの申し込みをお願いします。(A4版の申込み用紙を同封してありますので、FAXをお願いします。

043-489-7809融合研事務局 または、047-445-3669融合研事務局長自宅)

(1)期 日 2001年7月7日(土)10:30~8日(日)12:00

(2)場 所 栃木県鹿沼市「栃木厚生年金休暇センター」

詳細は、次ページ以降の案内をご覧ください。

分科会Bでの発表者を募集します。実践事例をお持ちの方は、融合研事務局までご連絡ください。

とくにすべての参加者が提言者になれるよう、「はじめての学社融合」ほか幅広いテーマを考えています。

また、事例発表はしないが、資料提供ならという方は、「屋台フォーラム」の希望欄に をお願いします。

ご自分の活動の課題をアドバイスを受けたり、他の会員と仲良くなれます。

懇親会は、恒例になった「セリ市」を行います。地元の「名(迷)産品」があればご提供ください。

(予告) 鹿沼の学社融合がテレビ放送されます。

NHK教育「教育トゥデイ」 4月12日(木)23:00~23:29 再放送 4月19日(木)15:30~15:59

学校と地域の融合教育研究会第5回大会

融合フォーラム2001 in 鹿沼

21世紀の学びをデザインする

総合的な学習と学社融合

新たな教育課程が2002年からスタートする。学校の教育課程の改訂は単に学校教育に変化をもたらすだけでなく、社会に大きな影響を与えるものである。特に今回の改訂では、学校週5日制の完全実施と共に、総合的な学習の時間が創設される。これらの変化に対応するためには学社融合の考え方を導入することは不可欠である。そのおり、これまでの学校中心主義の考え方を改め、地域が主体となり自ら地域に豊かな教育・学習環境を構築していくことが求められる。そこで、融合フォーラム2001では、学校週5日制や総合的な学習の時間に対応した地域側の主体的活動のあり方を、学社融合の視点から明らかにしていきたい。

主催 学校と地域の融合教育研究会(代表 宮崎 稔)

期日 2001年7月7日(土)、8日(日)

会場 栃木厚生年金休暇センター * 宿泊はこのセンターを利用します。

(交通機関の案内) 鹿沼ってそう遠いところじゃない

電車利用の場合

東京.....大宮.....宇都宮駅.....鹿沼.....会場

新幹線30分 新幹線30分 JR日光線14分 車で5分

浅草.....新鹿沼.....会場

東武日光線特急80分 車で15分

自家用車利用の場合

東北自動車道鹿沼インターチェンジ.....(20分).....会場

日程 大会第1日目 7月7日(土)

10:30 市立石川小学校の音楽の融合活動見学

12:00 受付開始

13:00 全体会

13:00 開会あいさつ

13:10 基調提言「学社融合の全国的動向」

13:30 論文発表(20分×3本)

15:00 分科会(鹿沼づくし 内容は予定)

総合的な学習

保護者とすすめる生活科の学習

豊かな音楽環境づくり

国際理解を支援する

ボランティアと教師が協働する図書館教育

子どもと共に学ぶ情報教育

地域の講座で学ぶ選択教科

高齢者が参画する福祉教育

地域サークル活動と一体化した美術の授業

学社融合をコーディネートする

17:30 屋台フォーラム(会員の自由発表)

18:30 交流会・全国名産市(21:00終了)

大会第2日目 7月8日(日)

8:30 融合研総会

9:00 分科会(すべての参加者が提言者～論じ合う分科会)

はじめての学社融合

学校を地域施設化した学社融合のこれから

授業を学社共学の間とした学社融合のこれから

民間の教育力が生かされた学校教育のこれから

学社融合論を検証する

10:40 記念講演

講師 文部科学省生涯学習政策局生涯学習政策審議官 寺脇 研 氏

11:50 閉会

経 費 大会参加費 3,000円(資料代、会場費、通信費など)

懇親会費 5,000円(夕食を兼ねる)

宿泊費 5,100円(1泊朝食つき)

申 込 2001年5月末までに、学校と地域の融合教育研究会事務局に、別紙申込用紙を使い、FAX043-489-7809でお送り下さい。なお、宿泊については先着250名までが会場の厚生年金休暇センターとなります。

また、参加者多数の場合、会場の都合で、申込期限以前でも締め切る場合がありますので、参加希望者は早急に申し込んで下さい。

問合せ 開催責任者 越田幸洋 〒322-0007栃木県鹿沼市武子539-31

TEL・FAX 0289-63-4788 E-mail mailyukul@mb.infoweb.ne.jp

備 考 この案内状を所属機関・組織などに配布できる方がいましたら、刷り増しして配布して下さい。特に県や市町村教育委員会の方は特によりしく願います。

融合フォーラム2001 in 鹿沼 参加申込書

お名前 _____ 会員ですか はい・いいえ

ご住所(自宅)〒 _____

E-mail _____

(勤務先)名称 _____

住所〒 _____

電話(自宅) _____

(勤務先) _____

1 参加する行事に 印をつけて下さい。

第1日目 7月7日(土)	10:35 石川小見学	
	13:00 全体会・分科会	
	18:30 交流会	
第2日目 7月8日(日)	9:00 分科会	
	10:40 記念講演	

2 大会会場の厚生年金休暇センターに宿泊しますか

宿泊する	
宿泊しない	

3 交通機関は何をご利用になりますか

電車を利用する	
自家用車を利用する	

4 論文発表を希望しますか 希望する ・ 希望しない

5 屋台フォーラムでの発表を希望しますか 希望する ・ 希望しない

6 鹿沼大会へのご意見・ご希望をお書きください

この申込書は、融合研究会事務局(FAX043-489-7809)までお送りください。

(予告) 次年度の冬季フォーラムが決定！！

2002.2.2(土)～2.3(日) 於. 静岡県富士宮市

富士山の麓である富士宮市は、「富士山学習」や、学校の余裕教室を公民館分室にするなど、学社融合の取り組みが盛んです。そこで次年度の冬季フォーラムが行われることになりました。東京から新幹線「こだま」で1時間ちょっと、また宿泊場所は一番富士山が美しく見えると言われる「朝霧高原」です。

実践事例が豊富な地域であり、新たな取り組みも開始されようとしている地域です。実施へ向けての過程で参考になる取り組みが多々あるかと思しますので、今から予定をしておいて是非参加していただきたいと思えます。

4 会員の新聞等掲載記事(別紙、資料)

「河北新報」(針生英一) 「日本教育新聞」(和泉裕一)

5 連絡いろいろ

事務局会議の様子

これまで、2ヶ月に一度の割合で「事務局定例会議」を行っています。今回は、鹿沼フォーラムが議題になるということから、越田幸洋さんが集まりやすい所ということで、場所を東京文京区の岸副会長の会社で行いました。「誰でも参加できる会」ですので、丁度翌日に秋津小を参観するので東京のホテルに宿泊することになっていた佐賀県新栄小から教員とPTA会長の2名も参加しました(新栄小は、村岡智彦会員;会員番号26が校長をしている学校です)。

議題は、上越フォーラムの総括 鹿沼フォーラムの準備状況確認 富士宮フォーラムの件
NPO化について メーリングリストの設立について 融合研の課題(積み残し分)
について討議(と懇親)をしました。

については、前ページまでに会報で報告したとおりです。これからも、融合研に求められているものが多様化していきますので、さらに勉強をしていきましょう。

NPO法人化へ向けて

融合研の活動が活発化、多様化してきました。そこで、「NPO法人になったらどうだろうか」という声が出始めました。このことに詳しい会員がいる反面、多くの会員がまだ詳しくないので「メリット」「デメリット」の線から検討することになりました。この日の会議では、その必要はないという意見は一つもありませんでした。賛成意見の中には、

- ・組織が大きくなった。
- ・予算や寄付金等の会計面から
- ・責任の所在

- ・行政との連携のしやすさ
- ・研修会などの参加で、行政職員の場合はどの立場で参加したらよいか難しいのでNPOになるとよい。
- ・融合研では民間の単なる任意団体であり、知らない人や外部に信用の問題がある。
- ・NPOになって何をやりたいのかをはっきりさせるべきだろう。等々がありました。

今後も、会員の皆様のご意見をお待ちしています。賛成意見が多数ならば、時期を見て「法人登録」をしたいと思います。

メーリングリスト(ML)について

会員の融合に対する取り組みが多彩に行われて、会報だけでは事例の紹介が間に合わないくらいになってきております。一方、これから一步を踏み出す方や悩みを抱えている方など、他の会員からのアドバイスを必要としている会員が増えてきました。それにともなって、日常的な情報交換をしながら実践活動を進めていきたいので、「メーリングリスト(ML)を立ち上げて欲しい。」という要望が数多く寄せられるようになりました。その折、上越フォーラムではこのMLによって、実行委員の連絡がスムーズにいくとともに、その過程で「融合とは」というような理論についても意見を出し合って高めていったという実績があります。

とはいうものの、すべての会員がパソコンを持っているわけではないので情報が等しく届かないという公平性が一つのネックになりました。

しかしそれ以上に、日常的に多くの会員が情報交換することは会の役割として大事であるということと、MLで話題になったことについてはできる限り会報で報告するという対応ということとをあわせ、メールをお持ちの会員同士でメーリングリストを設立することにしました。そして過日、登録用紙にメールアドレスがある会員には、MLに加入するかどうかの案内を出しました。

加入するかどうかは、個人の自由です。もちろん、脱退も自由です。

これまでアドレスを報告してなくて、これから加入する意思がある方は事務局へご連絡ください。

をそこで、作ることに、

にとって行政との連携のしやすさ

- ・研修会などの参加で、行政職員の場合はどの立場で参加したらよいか難しいのでNPOになるとよい。
- ・融合研では民間の単なる任意団体であり、知らない人や外部に信用の問題がある。
- ・NPOになって何をやりたいのかをはっきりさせるべきだろう。等々がありました。

今後も、会員

フォーラムの性格付け

これまで、フォーラムの名称を夏期は「融合フォーラム」、冬期は「ミニフォーラム」としてきましたが、参加者の増大や参加される地域の広がりを考慮し次のように変更します。

夏期 「融合フォーラム2000in市川」

冬期 「冬季フォーラム2001in上越」

太字斜体は、年度や開催地によって変わります。

その他に、融合を試行するいろいろな団体との合同ミニフォーラムを予定中です。また、各地の会員で、「自分の地域でもやりたい。」という方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡ください。会員の参加を呼びかけます。

会員の執筆記事・発表物がある場合は、事務局までご連絡ください。また、メールをお持ちの方は、MLでの発信をお願いします。

新聞等掲載記事 (内容を同封しました)

会費は郵便局へ振り込んでください

これまで千葉銀行と郵便局とに融合研の口座を開設していましたが、どうも千葉銀行の方がうまく入金できないことがあるようでご迷惑をお掛けしているようです。原因を調べていますがはっきりしません。そこで申し訳ございませんが、これから会費等は**郵便局へ**振り込んでいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

(記号)10500 (番号)42592921 宮崎稔 (住所)285-0843佐倉市中志津7-17-4融合研